

2021年度 福井厚生病院における看護職員負担軽減計画

	現状	目標	対策		
外来	1	医師の急な休診の場合の予約取直しを、看護師・補助者が行っている。連絡先も自宅ではつながらないことがあり時間外業務となっている。	医師の診療予約変更の連絡が日勤帯でできる	日中連絡のつく連絡先を予め確認しておき、窓口事務と協働で実施できるようにする	事務・看護師
	2	外来各診療科・手術室の薬剤定数運用は毎日看護師が定数チェックを行い補充管理している。	看護師が請求しなくても薬剤定数が補充される	薬剤定数はカード運用されているが、薬剤師による補充や定数・使用期限管理はできないかの検討を行う	薬剤師・看護師
	3	採血業務のほとんどを看護師が担っており、検査技師が日時限定で実施している。	採血が検査技師業務の一環となる	検査技師の欠勤等で左右されることなく、また、応援意識でなく協働して業務するための検討の場作り	臨床検査技師・看護師
	4	医師事務補助者が退勤後の診療記録を医師が入力せず、診察介助の看護師が入力している。	医師記録介助がなくなり時間外業務負担が低減できる	医師から医師事務補助者に指示または、医師自身が記録するよう話し合う	外来師長 医師
	5	外来各科窓口業務は医事課事務が行っているが、内視鏡や個別癌検診予約等の窓口業務は看護補助者が行っているため、有休や公休等で不在となる場合は、看護師が代行して実施している	事務部門に業務委譲できる	看護要員が行うべき業務に専念できるよう、事務職員配置の検討	事務・看護師
病棟	1	日々の薬剤定数確認を看護師が実施しているが、内服・注射等全て確認すると30分を要し、ナースコール対応等で中断し後回しとなり時間外実施となる	定数薬管理は薬剤師が担当し、看護業務に集中できる	看護師が、使用薬剤を電カルの実施記録を漏らさず行い、薬剤課で把握した後病棟定数と照合して管理することが出来ないか等を提案・検討し、定数残薬と補充業務を薬剤師に移譲する	薬剤師・看護師
	2	緊急以外は、当日の医師指示は15時までというルールが守られていないため、勤務終わりに指示受けすることでその後の処理が時間外となる また、定期処方も指示がないため看護師から医師に報告する手間がかかっている	医師指示受けから薬剤セットまでが勤務内で実施できる	処方切れは薬剤師も把握し、薬剤師から医師へも働きかけ、15時までのルールを守るための検討	医師・看護師・薬剤師
	3	入院診療計画書の作成が、入院前に作成されず、多職種の計画が立案できず、早期に方針が定まらない。	医師が、入院前に入院診療計画書を作成する	入院決定時に医師が作成し、患者・家族に説明が行え、速やかに多職種が診療計画に基づいた計画が立案できる	外来師長 医師
	4	調剤後の薬剤を看護師が時間を見計らって、取りに出向いている。また、1時間以上前の指示の場合であっても未調剤があると二度手間となり無駄な時間を要している。(これによる時間外も発生あり)	調剤後は病棟専従薬剤師が調剤後の薬剤運搬ができ、困難な場合は、完了の連絡がある等で看護師の無駄足にならない。	15時までの医師指示が守られれば、調剤完了時間を16時とする、調剤完了時の連絡等の検討	薬剤師・看護師
	5	注射カートが病棟1台であり、患者別に分けられた注射薬を、病棟に保管し直しを行い空にして、翌日用に薬剤課に運んでいる。	使用しない注射薬をカートから出す手間を省き、安全に管理できる	注射薬カートを増加し、カート内で安全に注射薬管理ができ、無駄な作業をなくすための再交渉	薬剤師・看護師
	6	衛生材料・物品のたな卸しを年2回実施している	棚卸を用度職員と協働で実施	棚卸を用度職員と協働で実施し、年2回から1回にできないかの検討	
	7	新規や変更商品の情報が事前がないこともあり、実施のためのマスター登録が遅延し使用後に電カルに対応していない場合があり、看護師の実施入力が出来ない。後日再入力を要したり実施漏れとして評価され、後日入力の手間がある	材料変更時等は事務部門で、電子カルテ上の材料変更処理を行い、リアルタイムの実施入力ができる	事前登録のための連携体制、もしくはマスター登録の一元化で登録遅延や漏れを防止する対策の検討をする	用度課職員・医事課職員・看護師
	8	夜勤が16時間45分勤務(休憩+仮眠時間90分)であり、病棟単位で看護師2名で担っている。夜勤時間に入る緊急入院や高齢者の身体援助や認知症対応等もあり、負担が大きい。	夜勤時間短縮につなげ、業務負担を軽減する	12時間夜勤及び休憩仮眠時間の延長のために、夜勤時間の補完と時間帯を検討する。	理事長・事務部長・人事課課長・看護師
その他	1	院内託児所が土曜日及び祝日のみの開所となっており、子育て中の勤務環境に改善の余地がある	子育て中の看護職員に対する配慮	看護師が、待機児童や家庭環境に応じた託児所利用ができる	保育士・事務・看護師
	2	車椅子、ストレッチャー移動患者の検査部門への送迎を看護師が担っている病棟業務を中断したり、検査呼び出しが重なったりすることで、遅れることがあり、そのために「まだか」とせかされることなどがストレスとなり、また病棟を離れている時間も長くなる。検査後も迎えに出向き、落ち着いて病棟業務に専念できない。	病棟内の看護業務に専念できる	予約状況に応じて、技師による可能な送迎を検討し、協力し合う体制作り	検査部門(診療放射線技師、臨床検査技師)
	3	採用活動にあたっては毎年人事課とも協働し学校関係の訪問を2回/年実施していたが、コロナ渦となつてからは電話にて採用について依頼を行っていた。また就職説明会に参加し直接学生と対面して話し合う機会をつくり当院で働くことのメリットも伝えているが、看護師採用が減少傾向である	看護師の確保	採用ホームページの改良を広報担当と検討する予定	看護部 職場体験担当 師長 人事課
	4	医療機器のメンテナンスや管理について、看護師の負担になっている場合がある	医療機器の適切な管理	臨床工学技士による各種医療機器の管理の実施、及び定期的なラウンドによる保守点検	臨床工学技士

[A … 取り組み開始 B … 取り組み中 C … 保留 D … 達成]